AGU 青山学院大学 NEWS No.49

AGUニューズ第49号
[2009年11月～12月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111（代表）
URL. http://www.aoyama.ac.jp/agunews/

青山キャンパス

特集 AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

創設50周年を迎えた法学部を記念し、法学部長と法務研究科長との対談を実施

就学キャンパスの再配置に伴い、青山キャンパスに新校舎「大学A棟」が誕生します

AGU TOPIC

文学部英米文学科は、2010年度から6コース制を導入

TOPICS

「東西インカレ」で女子バレーボール部が優勝
陸上競技部が初の「全日本大学駅伝」への出場権を獲得

報告・お知らせ

2009年度青山祭実行委員長メッセージ
2009年度給付奨学金・学業奨励賞
青山学院大学後援会報告

誌上公開講座

青山スタンダード　テーマ別科目
「スポーツバイオメカニクス」

INFORMATION

2009年度進路・就職支援行事日程
オープンキャンパス開催報告

創設50周年を迎えた法学部を記念し、法学部長と法務研究科長との対談を実施

特集

法学部長
土橋 正

1959年に設置された法学部は、今年で50周年を迎えました。著名人を招いての記念講演会の実施や、来たる11月8日（日）には記念式典の開催が予定されるなど、法学会や同窓会とも連携しつつ、節目の年を迎えて盛り上がりを見せています。

この50年間に、法曹界はもとより、多彩な分野に卒業生を輩出した法学部。これまでの歩みを振り返るとともに、今後の方向性も明確に指し示すために、土橋正法学部長と山崎敏彦法務研究科長による対談を企画。“AOYAMA LAW”の過去・現在・未来について語り合いました。

法務研究科長
山崎 敏彦

時代の流れがつくり出した“法化社会”の仕組み

土橋　法学部が今年で創設50周年を迎えました。学部創設時に尽力された多くの諸先輩方のご苦労があったからこその50年です。この記念すべき節目の年を学部長として迎えたことに感慨深いものを感じています。

山崎　私が青学の法学部に来たのは28年程前になりますが、それからの22年を考えてもいろいろな動きがあったわけですから、その倍以上、50年という時間の長さを感じさせられますね。

土橋　私が法学部に就任したのが26年前です。当時の法学部には、半田正夫先生をはじめ、森泉章先生、清水英夫先生、佐藤節子先生といった錚々たるビッグネームが教授陣に名を連ねている時代でした。どちらがいいとは言えませんが、当時と現在とでは教育への取り組み方はもちろん、いろいろな面で大きく変わりましたね。

山崎　そうですね。その当時の先生方は、自分自身の研究活動が、そのまま講義にもつながっている感じでした。現在のように学生一人ひとりを教育するというよりは、良くも悪くも“私についてこい”といった気質を持った方が多かったですね。

土橋　最近の大学は、社会や学生のニーズに如何に対応するかが大切とされており、自ずと教員にとって「研究」と「教育」とは結びつきにくい環境にあります。とはいえ、それをもって「昔は良かった」と懐古するわけではありません。やはり時代の流れがありますから、大学も教員も時代のニーズに対応することは大切だと思います。

山崎　社会が“法化”していることが確かにありますね。法化社会のなかで法律を学んだ人がどういう役割を担うべきなのか、そのあたりを教育でも考慮する必要があると思います。極端に言えば、昔は法を学ぶのも教えるのも「裁判」を念頭におけばよかったものが、現在は「法は裁判のみにおいて機能しているのではない」ことを誰もが理解している時代ですから。

土橋　思えば、50年前はもとより、20年前であっても、当時では想像もできなかったような社会の仕組みが構築され、現代社会は新しい事件、そしてそれらに伴う新しい法律も生み出しています。ITの分野など、その最たるものかもしれません。IT犯罪などここ数年のことですからね。さらには、環境に関する法律も時代の流れの賜でしょうし、最近話題となる食品偽装に関する事件などは、以前ならありえないと考えられていた事例のはずです。

山崎　本当ですね。まさにこの10年で、社会や法を取り巻く状況が大幅に変わりました。

土橋　私が学部長に就任して6年目ですが、その前の4年は山崎先生が学部長でした。ということは、この“激動の10年”は、我々2人が学部長を務めてきたわけです（笑）

山崎　そういえば、そうですね（笑）

“公法・私法”の時代から、“コース制”の時代へ

土橋　やはり昔と現在とを比較する話になりますが、少なくとも私が青学に来た25年程前までは、法学部の学生は基本的に「六法」を柱に学ぶとの不文律がありました。それが最近は六法以外の“別グループ”の法律が注目されるようになっています。恐らくカリキュラムも当時はかなり単純だったのではないでしょうか。

山崎　その当時、もっと言えば我々自身が学生のころは、法学といえば「公法学」と「私法学」に分けるのがあたりまえでした。でも今では、理論的にも「公法」と「私法」とに分けるのは無理であるとみられています。

土橋　そうですね。「公法」は公務員を目指し、「私法」は企業を目指すという一応のイメージがあり、実際に公法の方が憲法や行政法に重点を置いたカリキュラムにはなっていたはずですが、だからといってそれらが私法に関係ないわけではありませんからね。

山崎　現在も言うまでもなく、基本となる

六法を学ぶことは最重要課題であり、これを理解することがさまざまな応用に対応するためにも必須の前提です。しかし、以前と違って新しい分野の新しい科目が数多く展開されている現実があります。そしてその現状を眺めてみると、昔は分けられていた「公法」と「私法」の学びが横断的に再構築されているように見受けられます。

土橋　なるほど、そうかもしれません。結局は本学でも公法と私法との2学科制を廃止して法学科に一本化し、現在につながるコース制が誕生したわけです。

山崎　現在は6コースでしたね。

土橋　「総合法律」「企業法務」「公共政策」「法曹」「隣接法曹」「国際渉外法」の6コースです。ただし、まだ構想の段階ですが、社会のニーズを見据えたうえで、このコースを4つに絞ろうとの動きがあります。まずは法曹を目指すためにロースクールの受験を最初から視野に入れたコース。ビジネスに法律を生かすための企業法務を見据えたコース。国際化社会に対応した外国法に力を入れた渉外法のコース。そして「法の基本に立ち返る」ではありませんが、人権にアプローチするヒューマンライツ的なコースの4つを想定しているところです。恐らく実現できるとしても、人文・社会科学系学部（7学部）が4年間、青山キャンパスで学ぶ、就学キャンパスの再配置が行われる2012年からの実施だと思いますが。

山崎　4コースともに学生が何を学ぶのかが明確になっており、とてもいい分け方だと思います。何より公法と私法のような曖昧さがありません（笑）。法曹、ビジネス、国際、人権と、それぞれに個性を持ったコースとして、学生にも個々の特色が伝わりやすいのではないでしょうか。

土橋　そして、コースの再編とともに考えているのが、青学の法学部を卒業したからには、最低限の法の知識を身に付けてもらうことを目的としたカリキュラムの構築です。具体的に言えば、選択コースによって科目の縛りを強めようと考えています。カリキュラムに関しては、最近は“幅広く自由に選択できる”ことがトレンドなので、時代に逆行しているかもしれませんが、やるべきことはしっかりやってほしいのです。実は現在のカリキュラムだと、場合によっては「債権法」を学ぶことなく卒業できてしまうこともありえます。債権や契約の知識を持たずして、法学部の学生としてどうか…というわけです。

山崎　社会のニーズの変化という話がありましたが、学生自体の気質も大きく変わりましたね。以前の学生はもっと自主性があり、カリキュラムの選択ひとつとっても「任せても大丈夫」という安心感がありました。現在はある程度のアドバイスが必要となる学生が多いです。もちろん一方で昔より素直で真面目な学生が多く、その面では評価できるわけですが、少し物足りなさは残りますね。

法学部と法務研究科がより深く連携するために

土橋　今回の対談を進めるうえで、当然話題の中心となるのが、本学部と法務研究科（ロースクール）との連携です。2004年に創設した法務研究科ですが、5年経ってどのような印象を持っていますか。

山崎　新司法試験がスタートし、どうしても試験の合格者数で評価されるので、もう少しがんばらなければと思っています。それでも多くの優秀な研究科生が集まってくれており、例えば法学未修者の3年標準コースに入り、きっちりと3年で受かった人がでてきています。こうしたことを考えると、それなりの成果がでていると思います。

土橋　私もみなさんが頑張っておられることは感じています。ただ、今ひとつ、本学の法務研究科が、その教育の質の高さに比べて評価が得られていないと思えてならないのです。

山崎　そういったことはあるかもしれません。とくに残念なことに、青学の法学部には法律家になりたいとの強い意志をもった優秀な学生がたくさんおりますが、学部からの進学者が意外と少ない現実があります。私は学部の授業も担当している関係で、私自ら受け入れたいなと思われるとても優秀な学生について、他大学の法科大学院への推薦状を書くという状況もあるわけです。

土橋　本学ならではのしっかりとした演習を行っているわけですから、学部生が気軽に大学院の演習を体験できるような機会を積極的に設けるべきかもしれませんね。また、制度的な話になりますが、学部の3年間である程度の単位と知識を取得すれば4年生から大学院の講義を受けられる、いわゆる“飛び級”の制度導入なども急ぎたいですね。

山崎　飛び級制度は、我々にとっても、また学生にとっても非常に魅力的な制度だと思います。学生たちは大学に入学した段階から明確な目標が生まれ、モチベーションを維持したまま学習に取り組めるはずです。それに“3年＋3年”との意識を最初から持っていれば、おのずと法科大学院を強く意識してもらえます。ただし、その進学先に本研究科を選んでもらえるよう、さらなるアピールが必要となりますが…。“4年＋2年”、“3年＋3年”と、どちらにしろ“6年間を青学で学ぶんだ”と学生に思ってもらえるような体制や環境を築いていくことが大切ですね。

土橋　そういう意味では、2012年に予定される就学キャンパス再配置は、一貫した学びの体制を構築したい法学部と法務研究科にとっては朗報です。これまでのカリキュラムでは、青山と相模原で科目をいずれかに振り分ける必要があり、3年生で青山に来てから相模原に設置されていた科目の重要性に気付いても手遅れということがありました。4年間を同じキャンパスで過ごせることで、カリキュラムの履修にも柔軟性が生まれるはずですし、何よりも入学直後から法務研究科がキャンパス内にある環境が、法曹を目指す学生にとっては大きな刺激になるはずです。先程も言った「模擬演習」的なイベントもやりやすくなると思います。

山崎　私も就学キャンパス再配置には大いに期待しています。法学部と法務研究科が同じ敷地にあることで、“6年間を青山で”との意識も強くなるはずですから。3年後を充実した体制で迎えられるよう、本研究科では、一層真剣に法曹養成教育に取り組んでいくつもりです。

土橋　50周年を迎えた法学部でも3年後を見据え、コース制の見直し、カリキュラムの再編成、さらにはセメスター制の導入などにも着手していくつもりです。この50周年をひとつの転機とし、今後のさらなる飛躍につなげていきたいですね。もちろん法務研究科ともより強く連携していきます。山崎先生、よろしくお願いします。

山崎　こちらこそ、今後ともよろしくお願いします。

特集

就学キャンパスの再配置に伴い、青山キャンパスに新校舎「大学A棟」が誕生します

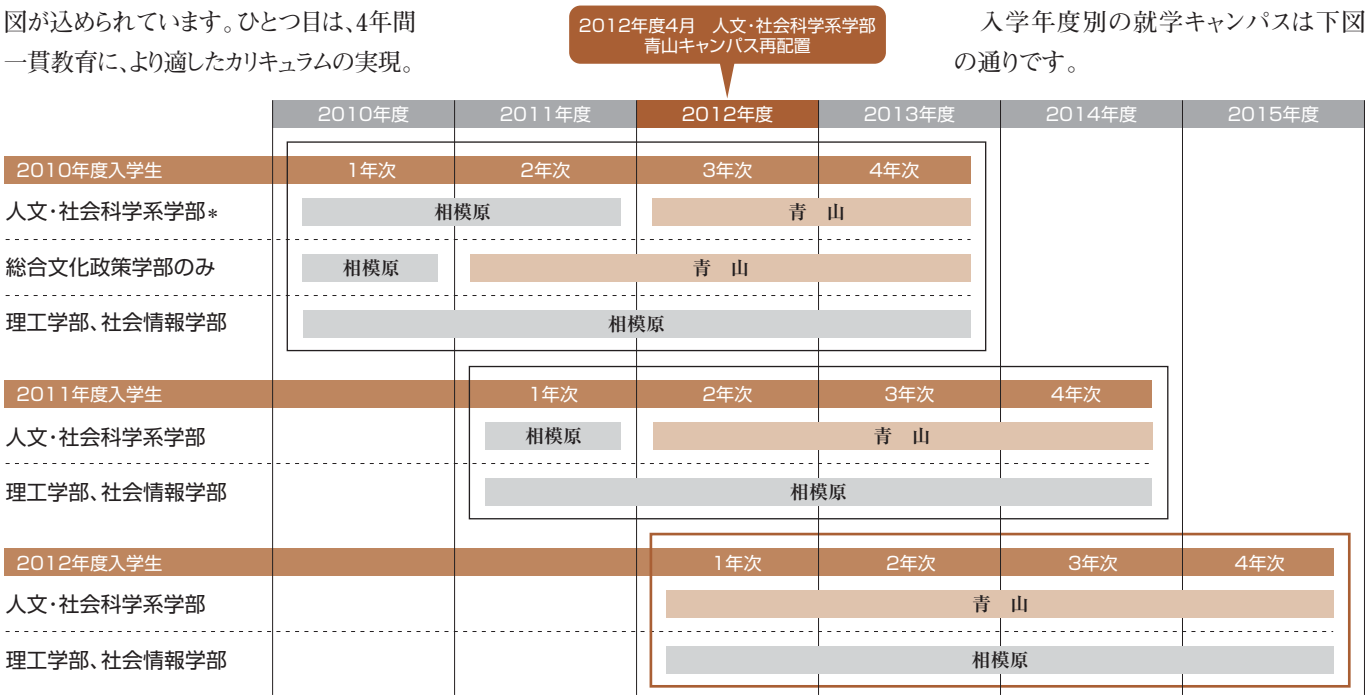
青山学院大学は、2012年4月より人文・社会科学系学部（文学部・教育人間科学部・経済学部・法学部・経営学部・国際政治経済学部・総合文化政策学部）が1年次から4年間青山キャンパスで学ぶ、就学キャンパスの再配置を計画しています。本学はこれに合わせ、青山キャンパスに新校舎「大学A棟（2012年1月竣工予定）」を建設し、さらに充実した教育研究、学生生活環境の実現を目指します。今回は、就学キャンパスの再配置にこめられた意図、大学A棟の概要をご紹介します。

青山キャンパス「大学A棟」完成予想図

4年間一貫教育の充実化を図る 就学キャンパスの再配置

現在、人文・社会科学系7学部では、1・2年生が「相模原」、3・4年生が「青山」、理工学部、社会情報学部では、1～4年生まで「相模原」で学んでいます。今回の就学キャンパスの再配置により、人文・社会科学系7学部の1・2年生が「青山」で学ぶことになります。そこには3つの意図が込められています。ひとつ目は、4年間一貫教育に、より適したカリキュラムの実現。2～4年生、1～4年生など、3学年以上の学生が履修できる科目の設置が可能となり、継ぎ目のない合理的な教育を実践できます。ふたつ目は、学年や師弟の枠を超えた交流による、キャンパスの活性化。教育研究、クラブ・サークルなど学生生活全般において、充実した人間関係の構築に適した環境が整います。3つ目は、青山の地域文化的環境の活用。ファッションやアートなど多彩な文化があふれる青山キャンパス周辺の環境は、人文・社会科学系の学問を追究するうえで、大きな教育効果を期待できます。

入学年度別の就学キャンパスは下図の通りです。



*人文・社会科学系学部（7学部15学科）文学部／英米文学科、フランス文学科、日本文学科、史学科　教育人間科学部／教育学科、心理学科　経済学部／経済学科、現代経済デザイン学科　法学部／法学科　経営学部／経営学科、マーケティング学科　国際政治経済学部／国際政治学科、国際経済学科、国際コミュニケーション学科　総合文化政策学部／総合文化政策学科

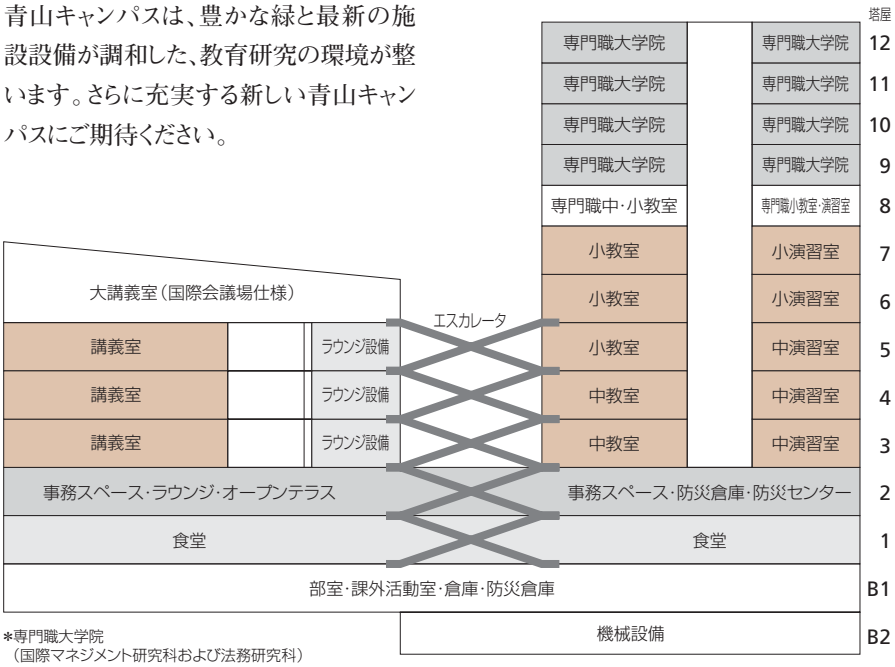
快適性と省エネ性を志向する、ツインタワー「大学A棟」を建設

「大学A棟」の建設は、就学キャンパスの再配置により、約16,000名の学生が青山で学ぶことになるため、教育研究、学生生活に必要な空間を十分に確保するものとして、決定しました。地下2階・地上12階の建物の内部には、国際会議場仕様の大講義室、学部の授業等に使用される各種教室、専門職大学院の専用教室など約6,000席が収容されます。

新校舎の特徴は、地上6階の低層棟と地上12階の高層棟からなるツインタワーの構造。低層棟を銀杏並木側に配置し、建物全体に日の光が行きわたるように設計されています。さらに、高層棟の側面に反射素材を貼り、反射によってビルの谷間に光を導く、わが国初となる試みも取り入れられています。

また、省エネへの取り組みとして、大講義室屋根にソーラーパネル、屋上に緑化されたテラスを配置。この他にも、建物のさまざまな箇所に省エネ設計を施し、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）最高位のSランクを目指します。

このように環境負荷低減への工夫が施された「大学A棟」が完成した暁には、青山キャンパスは、豊かな緑と最新の施設設備が調和した、教育研究の環境が整います。さらに充実する新しい青山キャンパスにご期待ください。



*専門職大学院
（国際マネジメント研究科および法務研究科）

青山地区から文化を創出する新たな拠点「青山学院アスタジオ」がオープン

2009年9月、青山から文化を創造し発信する新たな拠点「青山学院アスタジオ」がオープンしました。設置場所は、青山キャンパスから見て、青山通りの反対側に位置する常青寮跡地（神宮前5丁目）。アスタジオには、①青山・表参道という地理的環境の特性を生かす、②「21世紀の青山学院のアカデミック・グランドデザイン」に基づき、それにふさわしい文化の創造や情報の発信機能を持つ、③社会と連携して学院の教育研究およびその他の事業を育成し、学生への支援はもとより地域や校友の文化向上・活性化に貢献する、④新たな収益確保にも努める、といった4つの理念があり、そこから「青山から文化を創造し、社会に発信する」という目的を定め、設立へのプロジェクトがスタートしました。

地上4階地下1階の建物の内部には、さまざまな文化の創造と発信活動を展開する「青山コミュニティ・ラボ（ACL）」の拠点をはじめ、カフェやショップなどが入るテナントスペース、NHKのサテライトスタジオ、多目的に利用されるホール、クリエイティブに関連する企業や個人を対象とした貸事務所スペースなどを設置。いくつものクリエイティブな活動が相乗し合う「キャンパスを超えたキャンパス」の展開にご注目ください。

「青山学院アスタジオ」外観。名称には「明日のスタジオ」の意味がこめられている

本学の体育授業に関する取り組みが、「大学体育FD推進校」として認定されました

社団法人全国大学体育連合では、大学教育における「体育」の在り方を研究調査するとともに、各大学のFD活動の支援ならびに体育活動の評価と表彰を行っています。毎年数校の「大学体育FD推進校」が選ばれ、表彰されていますが、平成20年度の選定において、本学が“FD活動の推進に優秀な実績を示している”と認められ、同連合より表彰を受けました。

従来、研究の合間にスポーツ実技に親しむとのイメージが強かった大学の体育授業ですが、本学では2003（平成15）年に「青山スタンダード」を立ち上げるにともない、体育の在り方を再検討。「体育」から「身体の技能」とカテゴリーの名称を変更し、さらにはコア科目に体育系としては珍しい“演習”を設けるなど、大幅な改革を実施しました。

当時のカリキュラム改革にも携わり、またFD推進活動に尽力することで今回の表彰にも大きく貢献した、教育人間科学部の井上直子教授も「一番大きな改革は、実技にプラスして“理論”を学ぶための時間も設けたこと。例えば、まず体力測定テストを行い、その結果をリアルな教材として講義にフィードバックしながら“自分の体”にアプローチを試みます。実技と理論がうまくリンクし、まさに『身体の技能』に関する知識を得ることができるのです」と、新カリキュラムの効果を語ります。今回の表彰によって、本学が取り組んできた“体育改革”の方向性が「間違いではなかった」ことを再確認できました。

FD推進活動に貢献した
教育人間科学部の井上直子教授（写真左）と安井年文准教授

「東西インカレ」で優勝を飾った女子バレーボール部が、学長室へ“優勝の喜び”と“秋への決意”を報告

6月18日（木）～21日（日）に仙台で行われた第28回東日本大学バレーボール選手権大会（東日本インカレ）で3位入賞を果たした女子バレーボール部は、「東日本インカレ」および「西日本インカレ」の各上位4校が集って開催される「第4回東西インカレバレーボール女子選抜優勝大会」に出場し、見事優勝を飾りました。

8月10日（月）午前中の1回戦で西日本準優勝の広島大学を3-0のストレートで撃破し、その勢いのまま臨んだ同日午後の2回戦では、東日本インカレの準決勝で敗れた宿敵東海大学に対して3-1で雪辱。そして翌8月11日（火）には、同大会3連覇を狙う嘉悦大学との決勝戦をフルセットの末3-2で勝利し、第1回大会に続き2度目の東西インカレ優勝を果たしました。

8月26日（水）には、女子バレーボール部の生瀬良造監督と江森圭美さん、浦澤奈美さん、鯉淵麻理さん、千葉智枝美さんの4選手が、学長室を訪れて優勝報告。伊藤定良学長、長谷川信副学長、岡田昌志副学長から健闘を称えられた監督、選手たちは、激戦を振り返りつつ優勝の喜びを伝えました。しかし女子バレーボール部の気持ちは、すでに秋のリーグ戦、そして全日本インカレに向けられており、優勝報告の席上で秋以降のさらなる飛躍を約束。力強い決意の言葉に、伊藤学長からも「秋はぜひ応援に駆けつけ、勝利の瞬間を一緒に喜びたいです」とエールが送られました。

陸上競技部が33年振りの箱根駅伝出場に続く快挙！初の「全日本大学駅伝」への出場権を獲得！

2009年11月1日（日）に、熱田神宮から伊勢神宮までの106.8km（8区間）の距離で開催される「第41回全日本大学駅伝対抗選手権大会」の関東学連推薦校選考会が、6月21日（日）に国立競技場で行われ、陸上競技部は6位の成績を収め、本大会への初出場を決めました。「全日本大学駅伝」は、「箱根駅伝」「出雲駅伝」とともに、「三大学生駅伝」と称される駅伝大会です。今年で41回目を数えますが、本学の出場は今回が初となります。

今年1月、33年振りの箱根駅伝出場を果たしたことに続き、全日本大学駅伝への初出場という快挙を達成した陸上競技部。原晋監督は、「今年のチームは4年生と1年生にスピードある選手が揃っていたこともあり、箱根の20kmと違い10kmの距離で選考会が行われる“全日本”にチャレンジしました。無事に目標をクリアできたことは良かったですね。ただし日程の関係で、全日本の本戦が行われる前に、箱根の予選会（10月17日）が予定されています。夏場は“箱根”に照準を合わせて長距離の練習を重ねてきました。伊勢路は箱根の出場権を獲得したうえで、気分良く走りたいですね」と語ります。

原晋監督と全日本駅伝の選考会に出場した4年生
写真左から　豊島祐太郎君、米澤類君、原晋監督、荒井輔君

また、キャプテンの荒井輔君も「今年は新チーム結成時から“全日本出場”を合い言葉に選手一丸で取り組み、それを実現することができました。今度は“箱根でシード権獲得”を合い言葉に頑張ります」と力強く話してくれました。

10月17日（土）の「箱根予選会」、11月1日（日）の「全日本駅伝」での快走を期待したいと思います。

ラグビー部主将の伊藤真君が、7人制日本選抜に選ばれ、「ケニア・サファリ・セブンス」に出場

ラグビー部主将
理工学部物理・数理学科4年
伊藤 真 君

ラグビー部主将の伊藤真君が、6月20日（土）・21日（日）に開催された7人制ラグビーの「ケニア・サファリ・セブンス」に日本選抜の一員として出場し、自身初となる国際大会でのプレーを果たしました。「ケニア・サファリ・セブンス」は、基本的にトーナメント戦で行われますが、敗退すると敗退したチーム同士で再びトーナメントが開催されるシステム。ケニアや南アフリカ、ウガンダなどの強豪チームには破れた日本選抜ですが、気分を切り替えて臨んだ“シールドトーナメント”では、準決勝でモロッコ代表、決勝でザンビア代表を破って優勝を飾りました。伊藤選手も全試合に先発出場し、シールドトーナメント決勝のザンビア戦では先制トライをマークするなどの活躍をみせました。

初めて日本代表の証である“桜のジャージ”に袖を通してプレーをした伊藤君は、「小学3年生からラグビーを始めて以来、“代表”と名の付く場所はまったくの初めて。日本選抜に選ばれたと聞いたときは本当に信じられない思いでした。ケニアでの6試合すべての試合で先発出場しましたが、やっぱり最初の試合が印象的。日本代表のジャージを着て円陣を組んだとき、“本当に日本を背負って試合に出る”ことを実感し、感極まって涙が溢れてきました。また、実際に対戦した海外の選手は、体が大きいだけでなくスピードやテクニックにも優れており、対戦することで学べた点がたくさんありました」と、遠征で得た大きな成果を語ってくれました。

男子バスケットボール部が、「関東大学バスケットボール選手権大会」で第3位の好成績

新チーム結成後、最初に迎える春の大一番「第58回関東大学バスケットボール選手権大会」において、男子バスケットボール部は第3位の成績を残しました。昨年は優勝し、“連覇”が期待された今大会、順調にベスト4まで進出した本学でしたが、5月30日（土）に行われた準決勝で、東海大学に惜しくも第4ピリオドで逆転負け（スコア80対83）。そして迎えた翌31日（日）の3位決定戦では、法政大学を相手に101対80のスコアで快勝し、第3位を死守しました。今大会を終えての感想および反省、さらには秋のリーグ戦、12月のインカレに向けての意気込みを男子バスケットボール部の長谷川健志監督に聞きました。

男子バスケットボール部監督　長谷川 健志

昨年に続いての“連覇”を目指して臨んだ選手権大会でしたので、3位の結果にはもちろん満足していません。それは選手たちも同じ気持ちだと

思います。準決勝の東海大学戦も第4ピリオド途中まで11点のリードがあり、普通ならそのまま逃げ切れるはずの展開でした。しかし、そこから消極的になり、こちらのイージーミスから流れが急変。相手を勢いづかせ、一旦狂ったこちらのリズムは、そのまま戻り切らずに逆転を許してしまったのです。ワンプレーの大切さ、さらにはゲームを支配する“流れ”の怖さを改めて感じさせられた試合でした。

この後には、秋のリーグ戦“3連覇”、インカレでの日本一奪回と、大きな目標が控えています。夏場にみっちりと練習し、個々の技術を高め、チーム力をさらにアップさせてきました。この春の悔しさを秋以降の戦いに思い切りぶつけ、応援していただける方々の期待に必ず応えますので、リーグ戦やインカレの際には、ぜひ選手たちに大きな声援を送ってください。

硬式野球部の小池翔大君が日本代表として、第37回日米大学野球選手権大会に出場

2009年7月12日（日）から16日（木）の日程で日本各地の球場を舞台に開催された「第37回日米大学野球選手権大会」の日本代表チームに、硬式野球部の小池翔大君が選ばれ、“JAPAN”の連覇に貢献しました。大会前のインタビューでは「選考合宿で十分にアピールできたかどうか自信がなかったので、代表決定の連絡を受けたときはビックリしました。ただ、小学校で野球を始めてから“日本代表”なんて初の経験なので、あまり実感が湧きません（笑）。とにかく思い切りプレーするだけです」と話していた小池君。2勝2敗で迎えた“聖地”神宮球場での5回戦（決勝戦）では、ランナーとして延長11回の裏に優勝を決めるサヨナラのホームを踏むなど、ラッキーボーイ的な活躍を見せました。

文学部第二部教育学科
小池 翔大 君

「キャッチャーは打つより守りが重要。米国チームにはパワーヒッターが並びますが、そんな米国相手に、日本の大学のエースたちの真っ直ぐがどれだけ通用するのか僕自身も楽しみです。恐らくピッチャーも真っ向勝負を望んでいるはずなので、投手陣を強気で引っ張っていきたいです」

「もちろん勝負なので勝つことは大切。それでもゲームの一瞬一瞬の駆け引きなどをじっくり味わえればいいですね。また米国との対戦以上に日本代表として一緒に戦う仲間たちとの交流も楽しみです。一流と呼ばれる選手たちの野球に対する姿勢など、吸収できる部分は積極的に取り入れたいと思います」と、数々の課題を抱きつつ臨んだ日米野球。生まれて初の“日の丸”を背負い、各大学を代表する選手たちとともに強豪米国チームに勝利した経験は、小池君を大きく成長させたはずです。こうした経験を手土産として青山学院に持ち帰った小池君は、硬式野球部のさらなるレベルアップに全力を尽くします。

文学部英米文学科は、2010年度から6コース制を導入。“英語”に対し、より多面的かつ専門的にアプローチします。

文学部英米文学科では、世界で通用する確かな英語力の獲得と、英語文化圏における社会、文化、思想への理解を深めることを目指し、より多面的かつ専門的に学べるカリキュラムを2010年度から新しく用意することになりました。最も大きな特色としては「イギリス文学・文化」「アメリカ文学・文化」「グローバル文学・文化」「英語学」「コミュニケーション」「英語教育学」の6つのコースによる学びの体制を導入することになります。

これまでも英米文学科は、グローバル化によって多様化する“英語の姿”に対し、柔軟に学習環境を整えてきましたが、今回、本学科の英語の学習をどのような方向に深めることができるのかを具体的に明示するべく、積極的なカリキュラム改革に着手しました。

なお英米文学科では、2010年度入試から「大学入試センター試験利用入学試験」の導入、および一般入学試験の「全学部日程」の開始に着手するなど、積極的な入試改革にも取り組みます。6コース制の実施や入試制度変革の背景について、文学部英米文学科の折島正司教授に話を聞きました。

文学部英米文学科
折島 正司 教授

英米文学科　が掲げる教育の目標は、当然ながら“英語力の養成”にあります。しかし、それはただ漠然と英語を学ぶのではなく、卒業後の進路に応じて、それぞれの人が自分自身の生活に必要な英語力を身につけることが前提となるのです。とくにグローバル社会と呼ばれる現代は、英語を使ったコミュニケーションの場が豊富にあり、求められる英語のスキルも多様化する一方です。本学科で2010年度からスタートする6コース制は、まさに目的に応じて英語を学べる環境を、より一層明確にするために用意したものです。学生は1・2年次の基礎的な学習内容を幅広く学ぶなかで、自分が本当に興味や関心を抱く分野を把握し、そのうえで3年次からのコースで専門性を探究できます。

コースごとの特色ですが、まず「イギリス文学・文化コース」と「アメリカ文学・文化コース」は、英米の人文系の教養に根ざした異文化の知識と教養を身につけることが目的となります。その一方で「グローバル文学・文化コース」は、純粋な英語圏でなくても“英語力”が重要となる国が数多く存在する背景に着目し、イギリスとアメリカ以外の英語圏の国々の文学と文化を学ぶという新しいコンセプトを持ったコースです。さらに「英語学コース」は、“英語”そのものについての知見を獲得し、その正確な使用法および人間と言語との関係性を学ぶコース。「コミュニケーションコース」は異文化理解とコミュニケーション技法の修得に重点を置いたコース。そして「英語教育学コース」は、世の中の流れに応じて今後ますます変化発展する学校英語教育に貢献できる人材養成を目的とするコースとなります。

こうして6つの専門的なコースで学べる環境は、学生側から見れば、興味のある分野を深く追究するための機会が用意されることを意味しますが、学科全体で見れば、“英語”を核とする幅広い分野への対応が可能であることの“安定感”や“信頼感”につながると考えています。また、広く多面的に英語や英語圏について学ぶと同時に、ひとつの方向に深く掘り下げて英語を学ぶことで、学生は自分の学習目標を明確に把握できるはずです。このことは、自らの将来を考え、明確な目的意識を持って勉学に打ち込むことにもつながります。ぜひ新しい英米文学科の学びにご期待ください。

なお、2010年度の入試からは、本学科でも「大学入試センター試験利用入学試験」を導入するとともに、一般入学試験において「全学部日程」も行うことになりました。これらは少しでも多くの方々に、本学科で学ぶための機会を設けたいとの思いで実施するものです。積極的なご活用をご検討いただきたいと思います。

（各コースの詳細は、英米文学科ホームページ
http://www.cl.aoyama.ac.jp/english/をご覧ください）

英米文学科に6つの専門コースが生まれます。

［イギリス文学・文化コース］

シェイクスピアを生んだイギリスの文学・文化を、中世・ルネサンスから現代まで、文学、演劇、映画、音楽、さらには多様な生活文化を通して学ぶ。高度な英語運用能力を養い、歴史と文化の関係を学び、未来を展望するコース。

［アメリカ文学・文化コース］

文学、演劇、映画から音楽まで、多様な資料を通して多面的にアメリカ文化を学ぶ。高度な英語運用能力を養い、グローバリゼーションの展開を英語と文化を通して検証し、批判的視点を養うコース。

［グローバル文学・文化コース］

アフリカからインドまで、世界に広がる英語圏の文学と文化を、グローバルな視点から学ぶ。高度な英語運用能力を通して多様な英語文学と文化にアクセスし、未来を開く視点を養うコース。

［英語学コース］

英語という言語を、主に、発音、文法、意味、歴史などの観点から科学的に考察する。言語と社会、言語と歴史、言語と文化の結びつきにも目を向け、人間と言語について幅広い教養を身につけることを目指すコース。

［コミュニケーションコース］

英語を媒介とした様々なコミュニケーション現象に、理論・実践の両面から包括的・体系的にアプローチし、高度な英語運用能力と異文化適応能力を有する国際人の養成を目指すコース。

［英語教育学コース］

学ぶ側の立場にたった一貫性英語教育を軸に、初等英語教育および中等英語教育における理論（目的論、方法論、評価論、教材編成論、外国語政策論等）と英語の授業を英語で行う実践力を備えた英語教員と専門家の養成を行うコース。

日本・メキシコ交流400周年記念　駐日メキシコ大使講演会「日本・メキシコ経済連携協定と今後の日墨関係」

1609年、メキシコへの帰路の途中で遭難し、御宿沖に座礁したフィリピン諸島総督ロドリゴ・デ・ビベロー団と、彼らを救助した村人達の出会いから日本とメキシコの交流は始まりました。それからちょうど400周年となる今年は、両国の相互理解と交流を促進する目的で、数多くの記念事業が行われています。その協力事業として、本学と本学WTO研究センターは、外務省とメキシコ大使館の後援を得て、7月9日（木）、駐日メキシコ合衆国大使ミゲル・ルイス・カバーニャス氏を招き、「日本・メキシコ経済連携協定と今後の日墨関係」と題した特別講演会を主催。大使は、両国が400年間にわたって友好関係を築き、互いに協力しながら発展してきた歴史を振り返った後、2005年の日本・メキシコ経済連携協定（EPA）締結を機に、近年さらなる深まりを見せる両国の経済関係について述べられました。メキシコは、今や日本企業が北米や中南米に進出する際の重要な拠点であり、日本にとって中南米最大の貿易相手国です。両国がこれまで培ってきた友好交流の歴史を踏まえ、両国がさらに深い戦略的関係を構築するために、政治対話の制度化や観光事業の促進を強化する必要があると主張されました。

ミゲル・ルイス・カバーニャス大使

第7回青山学院「会計サミット」～低迷する経済環境下における会計の役割と課題～

2009年7　月22日（水）に、ガウチャー・メモリアル・ホールにおいて、第7回青山学院「会計サミット」を開催しました。現在の金融危機下において、さまざまな経済回復への取り組みが行われているなかで、「会計がいかなる役割を果たせるのか」について検討しました。

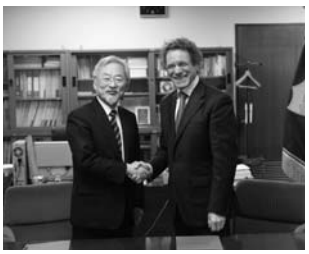
第一部　は、LEC会計大学院教授で公認会計士の林總氏を招いての「特別講演」。現場よりも会計数値を信用するタイプの経営者の方が経営判断を誤りやすいとの話や、固定費が高く景気変動を受けやすい高級フレンチレストランよりも、客の入りが多少減っても利益に与える影響が少ない（限界利益率の低い）餃子屋の方が不況下に強いといった話など、興味深い具体例を拝聴できました。

また経済・経営・会計のスペシャリストが揃った第二部の「パネル討論会」では、会計基準は市場で起こっている取引・事象を正しく財務諸表に反映させるルールであり、市場情報の開示を促す会計基準が市場を負のスパイラルに巻き込み、金融危機を増長させているとの議論は正しくないという結論を得ました。さらに、目先の利益計上や損失の先送りを行う会計処理を一時的に認めても、市場から評価されず、結果的に経済成長は見込めないと締めくくられました。

国連大学との一般協定を更新

青山学院大学　と国際連合大学（国連大学）は、両大学間で2003年12月に締結され、昨年12月に有効期間5年の期限切れを迎えていた一般協定を、さらに5年間（2013年12月15日まで）延長することで合意。2009年6月17日（水）に、一般協定更新のための調印を行いました。当日は、国連大学のコンラッド・オスターヴァルダー学長とマックス・ボンド学長室長が、初めて青山学院大学を訪問。本学からは伊藤定良学長と国際交流担当の土山實男副学長が出席し、学長室にて調印式が行われました。

この一般協定は、本学と国連大学が共同研究プロジェクトの企画、実施、共同主催の講演会やシンポジウムを通して、国際教育と国際学術研究を促進する目的で5年前に締結されたものです。この協定に基づき、昨年両大学の共同研究成果がUNU Pressから出版されたのをはじめとして、これまで国連大学で行われている大学院授業への参加、共同講演会やシンポジウムなどが実施されてきました。今回の一般協定の更新を、本学が国連大学との関係を一層強くしていく新しいチャンスととらえ、両大学間でさらなる交流が活発化することを期待したいと思います。



モンゴル国サンジャー・バヤル首相を迎えての特別講演会「モンゴル国の鉱山政策と国際協力」

サンジャー・バヤル首相

7月17日（金）、青山学院大学総研ビル12階の大会議場において、モンゴル国のサンジャー・バヤル首相を迎えての特別講演会が開催されました。本講演会は、本学WTO研究センターの研究プロジェクト“日本・モンゴル経済交流促進のための共同研究”の一環という位置づけで、当日は満席（約250名）の聴衆者のなか、首相からモンゴル国の現状や今後の政策方針などについてお話があった後、本学のモンゴル留学生等を交えた質疑応答も行われました。

モンゴル国は、内陸の発展途上国であり、日本の約4倍という広大な国土に人口はわずか約270万人。ソビエト連邦下での社会主義国家から1991年に市場経済国家へと大転換して以来、さまざまな意味で発展の途上にあります。しかし、近年の経済成長率は8％前後と高い水準を誇り、モンゴル政府は、日本をロシア・中国と並ぶ第三の隣国と位置づけ、貿易・経済や外交面で積極的な交流を進めていく方針を強く打ち出しています。

首相は講演で、モンゴル国の豊富な鉱山開発を生かした経済、貿易のさらなる拡大を日本との間にも進める必要があると述べられるとともに、質疑応答でも学生たちの質問に対し、真摯に受け答えされていました。

「日本―ベトナム学長会議」と淡江大学に設けた本学サテライトオフィス開所式に出席

学長　伊藤定良

9　月17日から2日間、日本とベトナムが大学間でどう協力していくかを話し合うため、ベトナム教育訓練省が主催する第1回日越学長会議がハノイで開かれ、私と土山實男副学長、および国際マネジメント研究科の井田昌之教授が出席しました。日本からは有力国立大の学長・副学長と加藤重治文部科学省審議官をふくむ約100名が、ベトナムからはニャン副首相と大学のリーダーが大勢参加しました。会議ははじめに両国の大学間協力についての報告や提案が行われたあと、ダナン国際大学計画への日本の協力などをめぐって2日間にわたる討議があり、私は教育の質をいかに保証するかについての第三セッションの司会を務めました。ベトナムのトップ2大学の副学長と学術協定交渉に入ることもできました。

同会議　のあと台湾に向かい、李嗣涔台湾国立大学学長に会って本学との関係強化について話し、さらに張家宣淡江大学学長ら同大幹部が出席する本学のサテライトオフィスの開所式に臨みました。アジアの大学の国際化が予想以上に進展していることをあらためて目の当たりにしました。

2009年度課外教育プログラム活動報告

課外教育プログラム前期報告

2009年度の課外教育プログラムは、入学式も終わって間もない4月7日（火）、相模原キャンパスにて実施された「アルコールパッチテスト」を皮切りにスタートしました。アルコールパッチテストとは、新学期を迎え何かと飲酒の機会も増えるであろうこの時期に、「アルコールパッチテスト」を通して成年・未成年の区別なく、アルコールに対する知識を得てもらうと同時に、本人の体質について理解してもらうことを目的としています。当日は、新入生のクラブ・サークル勧誘行事も行われていることもあり、新入生、上級生含め約1,300人の学生が参加してくれました。テストの結果は強く反応が出た人、少し反応が出た人、反応が出なかった人等さまざまでしたが、参加した学生たちからは、「飲める体質と思っていたのに赤く反応が出て、本当は飲めない体質と知ったので、今度からは気をつけようと思う」、「お酒を飲む機会には、飲める人、飲めない人がいることを理解して、お互い楽しく飲めるように心がけたい」、「飲める体質だからといって飲みすぎることなく、肝臓病や、アルコール依存症などの慢性的な病気に気をつけようと思った」といった感想がありました。

その他にも「旬野菜の健康家庭料理（夏企画）」においては、野菜の収穫と新鮮野菜を使った料理の体験を行い、「上級救急救命法講習会」では、消防署にて緊急時に必要となる心肺蘇生法・AEDの使用方法等についての講習会が実施されました。

後期活動内容と今後の予定

- ○**手話講習会（集中講座 3日間）　9月16日（水）～18日（金）〈実施済〉**　企画・目的：講習会を通して、手話への理解と聴覚障害学生への支援活動を行いました。
- ○**ノートテイク入門　9月19日（土）〈実施済〉**　企画・目的：講習会を通して、聴覚障害者の支援とノートテイクへの理解を深めました。
- ○**上級救急救命法講習会　10月7日（水）〈実施済〉**　企画・目的：災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも必要な救命講習を実施しました。
- ○**旬野菜の健康家庭料理（秋企画）　11月29日（日）**　企画・目的：食文化を通しての異文化体験の場として、また食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。

Club & Circle Information

問い合わせ先　〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定（2009年10月～12月）

合気道部　第49回全日本合気道演舞大会（11月）
アイススケート部（ホッケー部門）
日本学生氷上競技選手権大会予選（10月）
アイススケート部（フィギュア部門）
東日本学生氷上競技選手権大会（10月）
アメリカンフットボール部　秋期リーグ戦（9月～12月）
居合道部　第42回東日本学生居合道大会出場（10月）
空手道部　全日本大学選手権（11月）
硬式庭球部　関東学生テニスリーグ（10月）
硬式野球部　東都大学秋季リーグ戦（9月～10月）
剣道部　全日本団体（10月）
拳法部　全日本学生個人選手権（10月）
サッカー部　JR東日本2009第83回関東大学サッカーリーグ戦（9月～11月）
柔道部　全日本学生柔道体重別選手権大会（9月～10月）
準硬式野球部　東都大学準硬式野球秋季リーグ戦（9月～11月）
少林寺拳法部　第43回少林寺拳法全日本学生大会（10月）
ソフトテニス部（男子）　関東学生ソフトテニス大会（秋期）（10月）
ソフトテニス部（女子）　東都秋季リーグ（10月）
水泳部　関東学生ウィンターカップ公認記録会（11月）
卓球部　全日本学生卓球選手権（10月）
チアリーディング部　青山祭演技（11月）
軟式野球部　東都大学軟式野球連盟新人戦（11月）
バスケットボール部（男子）
第58回関東大学バスケットボールリーグ戦（9月～10月）
第61回全　日本大学バスケットボール選手権（11月～12月）
馬術部　全日本馬術選手権大会（12月）
バドミントン部（男子）　全日本学生選手権（10月）
バドミントン部（女子）　全日本バドミントン選手権大会（10月）
バレーボール部（男子）
関東大学バレーボール秋季リーグ戦（9月～11月）
バレーボール部（女子）
秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦（9月～10月）
パワーリフティング部　関東学生パワーリフティング大会（11月）
フェンシング部　関東学生選手権大会（10月）
レスリング部　全日本大学選手権（11月）
陸上競技部　第86回箱根駅伝予選会（10月）
全日本大学駅伝（11月）
ラグビー部　公式戦予定（10月）
ラクロス部　新人戦ウィンターステージ（12月）
青山フォークウェイズ　新人コンサート（11月）
青山アナウンス研究会　発表会（10月）
箏尺八研究会　定期演奏会（10月）
競技ダンス部　東都大学学生競技ダンス選手権大会（10月）
天野杯争奪学生競技ダンス対抗戦（11月）
東部　日本学生競技ダンス選手権大会I部戦（11月）
E.S.S.　チャーチル杯スピーチ大会（11月）
オーケストラ部　第95回定期演奏会（11月）
グリーンハーモニー合唱団
グリーンハーモニー合唱団第55回定期演奏会（12月）
ロイヤルサウンズジャズオーケストラ　青山祭（11月）
オラトリオソサエティ合唱団　KAY合唱団演奏会（12月）

News Index 2009.7～9

2009年7月から9月までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

09年7月

- ●理工学部の橋本修教授と大和製罐㈱がテラヘルツ波技術での容器シール部異物検知技術を開発
- ●本学理工学部 物理・数理学科 吉田研究室も参加している観測実験（MAXI）がエンデバーで宇宙に飛び立ちました
- ●国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験について
- ●「創立135周年を迎える青山学院の改革への取り組み」の記者会見を行いました
- ●モンゴル国サンジャー・バヤル首相特別講演会「モンゴル国の鉱山政策と国際協力」を開催
- ●創立135周年記念行事・事業を掲載しました

09年8月

- ●社会情報学部の学生が制作した番組がケーブルテレビJ:COMで放映されました
- ●大学生の新型インフルエンザ発症と対応について

09年9月

- ●ヨミウリオンライン「青山学院スタイル2009」を更新しました

2009年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部に所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。

2009年度は6月17日（水）、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂にて授与式が行われました。

〈給付奨学金・学部〉

教育学科／岩尾 京子
英米文学科／中島 香織
英米文学科／中山 佑介
フランス文学科／堂岡 沙帆
日本文学科／川村 翠
史学科／加藤 典子
心理学科／近藤 夏樹
経済学科／井上 祐貴
経済学科／加藤 釈美良
経済学科／鴨居 七生
法学科／鷲田 梓
法学科／五十嵐 安那
法学科／髙味 紗樹子
経営学科／若林 雅人
経営学科／菅原 沙織
経営学科／後藤 百合香
物理・数理学科／奈良﨑 史貴
化学・生命科学科／田中 亜季
電気電子工学科／加藤 俊冴
機械創造工学科／蓮沼 将太
経営システム工学科／南 陽子
情報テクノロジー学科／明永 杏
国際政治学科／一松 紀子
国際経済学科／西山 猛
国際経済学科／岡 由希子
総合文化政策学科／西山 京子
社会情報学科／杉中 萌子
第二部教育学科／遠藤 雄人
第二部英米文学科／杉山 洋子
第二部英米文学科／室﨑 淳子
第二部経済学科／川瀬 竜
第二部経済学科／五十嵐 知喜
第二部経営学科／青井 太郎
第二部経営学科／永谷 直子

〈給付奨学金・外国人留学生〉

経済学科／愼 尹京
経済学科／姜 佳濫
経済学科／金 正完
経営学科／宋 芝恵
経営学科／于 永麗
経営学科／申 智娟
経営学科／李 静
国際経済学科／朱 暁黎

〈学業奨励賞〉

教育学科／田中 亜由弓
教育学科／渡邉 結実
教育学科／梅田 貴史
教育学科／佐野 彩夏
教育学科／有田 麻沙子
英米文学科／太田 遊
英米文学科／平田 沙織
英米文学科／村井 秀輔
英米文学科／折原 佳代
英米文学科／木下 彩加
英米文学科／中村 理佐
英米文学科／平岩 史子
英米文学科／ホラン 千秋
英米文学科／池田 成美
英米文学科／岩井 恵利奈
英米文学科／斎藤 美伶
フランス文学科／吉岡 亮祐
フランス文学科／梅原 ひとみ
フランス文学科／金沢 美佳
フランス文学科／名嘉眞 知美
日本文学科／白石 有祐美
日本文学科／大部 真央
日本文学科／矢野 明日香
日本文学科／飯島 真郁
史学科／山川 結梨
史学科／前田 佳子
史学科／山本 由美子
史学科／小泉 有里
心理学科／大原 万理恵
心理学科／眞間 理美
心理学科／杉山 慧
心理学科／若月 智恵美
経済学科／中津川 圭一
経済学科／深見 悠里子
経済学科／石井 達廊
経済学科／飯泉 沙季子
経済学科／中嶋 美保
経済学科／楳澤 祐一
経済学科／菊地 矢
経済学科／小針 あゆみ
経済学科／齋藤 慶
経済学科／関 貴裕
経済学科／井田 隼人
経済学科／伊藤 愛
経済学科／稲葉 真理英
経済学科／大江 航
経済学科／奥村 悠哉
現代経済デザイン学科／土屋 真紀
法学科／上田 真梨子
法学科／内海 桃子
法学科／関口 佑規
法学科／橋本 真弓
法学科／松尾 悠理子
法学科／栗原 明日香
法学科／阪谷 美紀
法学科／白川 美穂
法学科／寺田 早織
法学科／水野 哲太
法学科／秋葉 俊孝
法学科／阿部 浩和
法学科／奥 沙織
法学科／河田 真梨子
法学科／田村 千尋
経営学科／李 東昱
経営学科／鈴木 潤
経営学科／中津留 実香
経営学科／福田 幸子
経営学科／森 廉
経営学科／加賀 万里絵
経営学科／川口 拓也
経営学科／小山田 寛史
経営学科／佐藤 絢香
経営学科／穂坂 夏澄
経営学科／佐川 諒
経営学科／鈴木 淳
経営学科／清 香織
経営学科／松永 京
経営学科／山本 果歩
物理・数理学科／勝井 裕介
物理・数理学科／平山 貴士
物理・数理学科／谷中 志織
化学・生命科学科／加藤 久美子
化学・生命科学科／須藤 麻里
化学・生命科学科／武藤 克也
電気電子工学科／髙田 隆太郎
電気電子工学科／津田 祐己
電気電子工学科／深澤 由香
機械創造工学科／松田 匠
機械創造工学科／遠藤 亮雄
機械創造工学科／矢島 辰弥
経営システム工学科／尹 睿
経営システム工学科／井出 貴也
経営システム工学科／坂内 芽以子
情報テクノロジー学科／橋本 広美
情報テクノロジー学科／山田 和正
情報テクノロジー学科／山西 和広
国際政治学科／平井 麻祐子
国際政治学科／山﨑 周
国際政治学科／新井 晴香
国際経済学科／片野 沙織
国際経済学科／山越 理央
国際経済学科／永松 パオラ睦美
国際コミュニケーション学科／大城 碧
国際コミュニケーション学科／實田 真衣
国際コミュニケーション学科／金子 めぐみ
総合文化政策学科／押野見 春香
総合文化政策学科／田中 美鈴
総合文化政策学科／永田 由香莉
社会情報学科／桐下 拓也
社会情報学科／薛 直美
第二部教育学科／岩﨑 悠子
第二部教育学科／相川 公代
第二部教育学科／古木 大悟
第二部英米文学科／若狭 美絵
第二部英米文学科／増田 由美子
第二部英米文学科／露木 麻未
第二部経済学科／稲川 太白
第二部経済学科／塩田 良輝
第二部経済学科／西出 彰子
第二部経済学科／小﨑 正博
第二部経済学科／野口 淳志
第二部経済学科／林 生知
第二部経営学科／古川 貴生
第二部経営学科／水上 はるえ
第二部経営学科／小川 枝里子
第二部経営学科／藤原 孝之

「FUNtastic AOYAMA!」をテーマに、2009年度青山祭を開催

毎年多くの来場者で賑わう青山祭。今年度は、10月31日（土）～11月2日（月）の3日間、「FUNtastic AOYAMA!」をテーマに開催します。2009年度青山祭の実行委員長から、本番に向けた意気込みや見所などについて、メッセージをもらいました。

2009年度青山祭実行委員会委員長
堀田 辰則 君（経営学部経営学科3年）

私たち実行委員会は、今年度のテーマを決めるにあたり、それぞれが描く青山祭へのイメージをもち寄って、「笑顔」「非日常」「特別」という3つの言葉に集約させました。「FUNtastic AOYAMA!」の「FUNtastic」は、「fun（楽しみ）」と「fantastic（幻想的な）」を掛け合わせた造語で、「笑顔」と「非日常」のイメージは、この言葉によって表現されています。そして、通常頭文字だけが大文字となることが多いのですが、あえてすべて大文字の「AOYAMA」と表記することにより、青山祭を「特別」なものにしたいという願いを強調しています。

今年の一番の見所は、青山祭の名物「ミュージックフェスティバル」と「ダンスフェスティバル」。オーディションにより厳選された音楽団体やダンスサークルが繰り広げる華やかなステージは、会場を熱く盛り上げ、みなさんを大いに楽しませてくれるはずです。このほか、国道246号線の一部を借り切りみんなで練り歩く恒例の「提灯行列」、アーティストを招いてのライブステージなど、盛りだくさんのラインナップを予定しています。昨年にはなかった新しい催しも企画しているので、そちらにもご期待ください。

また青山祭では、伝統として、ゴミを細かに分別するエコへの取り組みを実施。毎年みなさんにご理解とご協力をお願いしています。

青山祭は、「学生の手で実現すること」をポリシーとしている学園祭です。サークルなどの団体に所属していない学生のみなさんも、ぜひ1日でも会場に足を運んでください。もちろん、学外からのゲストも大歓迎です。

新しい情報等については、青山祭ホームページ（http://aoyamasai.com/）に随時アップしているので、アクセスしてみてください。一緒に青山祭を盛り上げましょう!

2009年度「クリスマス・ツリー点火祭」を11月27日（金）に開催

本学では、アドヴェントに入る前の金曜日に、「クリスマス・ツリー点火祭～降誕を待ち望む礼拝～」を青山・相模原の両キャンパスで毎年行っています。今年の開催日は11月27日（金）。当日を迎えるにあたり、大島力大学宗教部長にその成り立ちと意義、来場者へのメッセージを語ってもらいました。

大学宗教部長
大島 力 教授

イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスを迎えるまでの4週間をアドヴェント（待降節）といいます。その直前に行われる「クリスマス・ツリー点火祭」は、一堂に会した人々が、ともに招きの言葉に耳を傾け、クリスマスを待ち望む気持ちを心に刻む礼拝です。

本学の「クリスマス・ツリー点火祭」は、アメリカのホワイトハウスで行われているクリスマスイルミネーションの点灯式にならって始まりました。第1回目が開催された1977年当時は、同様の行事は国内でまだ珍しく、大きな注目を集めたものです。それ以降、青山学院の精神を支える大切な行事となった点火祭は、毎年欠かすことなく行われ、現在は青山キャンパスで約5,000人、相模原キャンパスで約3,000人もの参加者を集める盛大なセレモニーへと発展しています。

当日は、学生、生徒、児童等の代表の手によってツリーに点火されます。夕闇の中に明かりが少しずつ灯っていく幻想的な光景は、会場の人々を大きな感動で包みます。そして、その厳かな雰囲気をさらに引き立ててくれるのは、美しい音楽。調和のとれた歌声を響かせる聖歌隊、魅力的な音色を奏でるハンドベル・クワイアの演奏も楽しみにしてください。また、近年は、青山キャンパスで巨大スクリーンを設置したり、相模原キャンパスで若者に親しみやすいメロディーの賛美歌を歌ったりと、さらなる工夫が施されています。

会場が一体となって感動を共有する点火祭は、すべての参加者にとって、特別なひとときとなるはずです。みなさんのご来場を心よりお待ちしています。

青山学院大学後援会報告

2009年7月24日（金）、青山学院大学後援会評議員会（総会）がアイビーホール青学会館において開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にして意思の疎通を図り、大学の教育および研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、青山学院大学に在籍する学生の父母ならびに保証人その他の有志によって構成されております。

主　な事業は、下記の大学後援会予算案および決算報告書に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏並びに地区別に開催されるペアレンツウィークエンド開催諸経費等その内容は多岐にわたります。

評議　員会は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告および決算報告、当年度の事業計画および予算案が審議され、あわせて役員の選出が行われます。

今回　は、新会長に相川和宏氏、新副会長に岩田圭介氏、同じく新副会長に岡部幸夫氏をはじめ、新任・継続あわせて71名の役員が選出されました。

評議　員会終了後、場所を移し役員、学長ほか大学教職員をまじえ、交歓のひとときがもたれました。

2008（平成20）年度

大学後援会決算報告書

収入の部

（単位　円）

科　目	予　算	決　算	差　異
前期繰越金	16,250,536	16,250,536	0
会費収入	104,960,000	107,134,000	△ 2,174,000
合　計	121,210,536	123,384,536	△ 2,174,000

支出の部

（単位　円）

科　目	予　算	決　算	差　異
学生活動関係			
学友会活動補助	35,000,000	30,922,275	4,077,725
学友会活動指導補助	14,000,000	13,030,000	970,000
保険料	18,500,000	18,478,150	21,850
奨学金事業補助	10,000,000	10,000,000	0
大学行事補助	1,500,000	429,012	1,070,988
アドバイザー・グループ会合費補助	1,000,000	945,000	55,000
ゼミナール活動等補助	1,200,000	750,000	450,000
教育環境整備補助	10,000,000	10,000,000	0
奨励金	3,000,000	1,800,000	1,200,000
後援会行事関係			
ペアレンツウィークエンド費	19,000,000	17,952,069	1,047,931
旅費交通費	100,000	60,000	40,000
会議費	1,200,000	1,055,270	144,730
消耗品費	50,000	152	49,848
通信費	50,000	36,660	13,340
その他			
慶弔費	600,000	170,000	430,000
貸付金	0	6,000,000	△ 6,000,000
【予備費】	6,010,536	0	6,010,536
支出計	121,210,536	111,628,588	9,581,948
次期繰越金	0	11,755,948	△11,755,948
合　計	121,210,536	123,384,536	△ 2,174,000

2009（平成21）年度

大学後援会予算

収入の部

（単位　円）

科　目	2009年度予算	2008年度予算	差　異	摘　要
前期繰越金	11,755,948	16,250,536	△ 4,494,588	会費収入内訳
会費収入	106,190,000	104,960,000	1,230,000	第１部 @6,000円 ×16,090名 = 96,540,000円 大学院 @3,000円 × 1,310名 = 3,930,000円 第２部 @4,000円 × 1,430名 = 5,720,000円
合　計	117,945,948	121,210,536	△ 3,264,588	

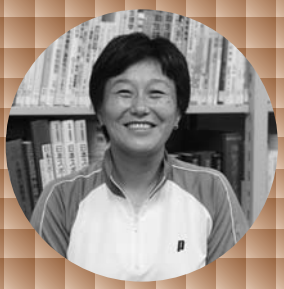
支出の部

（単位　円）

科　目	2009年度予算	2008年度予算	差　異	摘　要
学生活動関係				
学友会活動補助	30,500,000	35,000,000	△ 4,500,000	学友会クラブ活動補助他
学友会活動指導補助	14,000,000	14,000,000	0	学友会指導者・監督への謝礼（交通費一部負担額）他
保険料	18,800,000	18,500,000	300,000	学生教育研究災害傷害保険（通学時含む）
奨学金事業補助	14,500,000	10,000,000	4,500,000	経済支援奨学資金への補助
大学行事補助	1,500,000	1,500,000	0	大学行事補助
アドバイザー・グループ会合費補助	1,000,000	1,000,000	0	アドバイザー・グループ会合費補助
ゼミナール活動等補助	1,200,000	1,200,000	0	ゼミナール活動補助他
教育環境整備補助	10,000,000	10,000,000	0	教育環境整備補助
奨励金	1,000,000	3,000,000	△ 2,000,000	学業奨励他
後援会行事関係				
ペアレンツウィークエンド費	19,200,000	19,000,000	200,000	首都圏及び地区別ペアレンツウィークエンド開催諸費用
旅費交通費	100,000	100,000	0	事務連絡交通費
会議費	1,200,000	1,200,000	0	評議員会・懇親会費用
消耗品費	50,000	50,000	0	事務用消耗品
通信費	50,000	50,000	0	役員会・評議員会通信費
その他				
慶弔費	500,000	600,000	△ 100,000	学生・教職員の弔慰金
【予備費】	4,345,948	6,010,536	△ 1,664,588	
合　計	117,945,948	121,210,536	△ 3,264,588	

誌上公開講座　No.49

青山スタンダード
テーマ別科目　身体の技能
「スポーツバイオメカニクス」

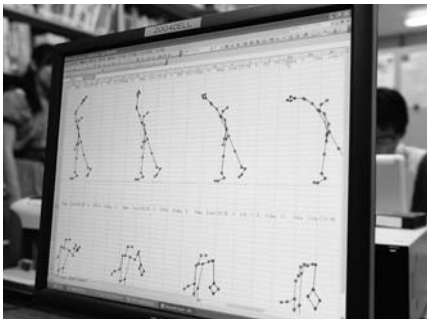


井上 直子
教育人間科学部教育学科 教授

昨今のスポーツ中継では、超スローモーション画像が使われること多くなってきました。例えばテニスではラケットがボールをとらえ、ストリングがゆがみ、ボールがつぶれ、ボールの毛が飛び散る様までも鮮明に見せています。人間の目では捉えることのできない素早い動き、ラケット面の変化、ボールの変形、上腕の動きなどをゆっくりと再現してくれます。通常のビデオ画像、テレビ画像は毎秒30コマの静止画が連続で再生されています。これに対して超スローモーション画像は毎秒1000コマという高速で撮影された画像が連続で再生されているのです。

スポーツバイオメカニクスの授業では、毎秒125～500コマまで撮影可能な高速度ビデオカメラを用いて、スポーツ場面を撮影し分析しています。毎秒125～500コマですから、先の超スローモーション画像よりもコマ数は粗くなりますが、市販のビデオカメラによる画像や通常のテレビ画像とは比べものになりません。バレーボールのアタック、テニスのフォアハンドストローク、サッカーのインサイドキックなど受講生は興味のある動作を選び、自らが被写体となって、同期された2台のビデオカメラを用いて2方向から撮影します。撮影された画像はVHSテープからaviファイルに変換され、「フレームディアス」という分析用ソフトに読み込まれます。画像上の頭頂、耳、肩、肘、手首、腰など身体の各部を入力すると、それぞれの三次元座標が計算されます。コマ数から時刻も同定できますので、時々刻々と身体各部がどのように動いているのかを数値で表すことが可能になります。

スポーツや運動場面では、自分の身体感覚と実際に表現される動きが必ず一致している訳ではありません。自分としては「こうやっているつもり」がそうなっていないことも多いのです。この授業ではビデオ画像を使って「人の動きがどうなっているのか」を客観的に示すことにより、その動きを理解すること、さらになぜそのような動きになっているのかを考えることをねらいとしています。「どうやるのか」という主観的な方法論の前に、「どうなっているのか」という客観的な事実を理解することによって、「上手くできる」方策を検討し、「上手い動作」をイメージすることが容易になるのではないでしょうか。



人間　の動作は地球上で行われている以上、また身体を使っている以上、重量や筋力、骨格などの制限を受けます。中村俊輔の「信じられないカーブを描くキック」も、ボールが空間にある間ボールに働く力は重力や空気抵抗だけです。キック動作中にボールと脚が接触している間は身体からボールに力が伝わっています。そこに「信じられないカーブ」を生み出す秘密があります。その秘密を明らかにして、自分のモノにしようという意欲がこの授業の出発点です。この授業を通して、スポーツの新たな楽しみ方、魅力を発見できれば幸いです。

2009年度 進路・就職支援行事日程

青山キャンパス

行事タイトル	対象者	日程	備考
就職ガイダンス（同一内容2回実施）	2010年度卒業・修了生	9月30日（水） 10月3日（土）	2011年3月卒業・修了生対象の第1回就職ガイダンス。 松澤理事長による講演と今後の支援スケジュール説明。青学オリジナルガイドブック配付。
テーマ別 ・女子学生就職セミナー	学部3年生・院1年生	10月6日（火）	キャリアデザインを描き、女性としての働き方を考えましょう。
・マスコミ就職セミナー	学部3年生・院1年生	10月7日（水）	マスコミ志望の学生のために、業界の採用動向や仕事の実態を説明。
・外資系企業就職セミナー	学部3年生・院1年生	10月8日（木）	外資系企業とはどんな企業なのか、採用試験等について説明します。
・マナー講座	学部3年生・院1年生	10月9日（金）	説明会、面接、OB・OG訪問。あらゆる場面で必要となる基本的なマナーについて。
・身だしなみ講座	学部3年生・院1年生	10月13日（火）	身だしなみを整えて、自信を持って就職活動に臨みましょう。
・OBによるマスコミQ&A	学部3年生・院1年生	10月14日（水）	マスコミ業界で働く卒業生の生きたお話が聞けます。
・CA・GS就職セミナー	学部3年生・院1年生	10月15日（木）	CA（キャビンアテンダント）、GS（グランドスタッフ）の仕事について。 航空業界の現状と採用の流れを説明します。
・ふるさと・地方就職セミナー	学部3年生・院1年生	12月18日（金）	Uターン、Iターンを目指す人の情報収集の仕方、企業研究などを説明します。
ES対策セミナー（自己分析と業界研究）	学部3年生・院1年生	10月20日（火） 11月11日（水）	就職活動の第一歩。自己分析と業界研究について解説します。
試験対策 ・SPI2試験対策セミナー	学部3年生・院1年生	10月19日（月） 12月17日（木）	筆記試験の代表格であるSPI2模擬テストを体験することで対策の方向性を明らかにします。（有料）
・一般常識テスト対策セミナー	学部3年生・院1年生	10月27日（火） 12月17日（木）	筆記試験のもうひとつの柱である一般常識模擬試験を受けて、実力を確認しましょう。（有料）
外国人留学生のための就職ガイダンス	外国人留学生	10月28日（水）	外国人雇用サービスセンタースタッフによる就職活動の注意点。
業界研究 ・今、注目の業界	学部3年生・院1年生	11月初旬 ～中旬	商社、メーカー、金融など実力ある業界について説明します。
・業界研究企業セミナー	学部3年生・院1年生	11月中旬 ～12月中旬	業界をリードする企業の人事担当者やOB・OGによる説明会。教室形式およびブース形式。
第二部学生による就職活動報告会	第二部学生	11月18日（水）	内定を得た第二部の4年生が後輩に語る、学生生活や就活アドバイス。
4年生からの報告・質問会	学部3年生・院1年生	12月4日（金） 8日（火）	納得のいく就職活動をして内定を得た4年生から、体験に基づく生きた情報を聞き出しましょう。
面接対策 ・個別・集団編	学部3年生・院1年生	11月27日（金）	採用試験で必ず行われる面接に向け、自信を持って臨むための心構えを聞き、模擬面接へと繋ぐシリーズ。
・グループディスカッション編	学部3年生・院1年生	12月2日（水）	最近多く実施されるグループディスカッションを、体験を通して理解します。
・卒業生による模擬面接	学部3年生・院1年生	12月上旬	OB・OGの協力で本番さながらの模擬面接を体験します。
官公庁等採用説明会	公務員志望者	10月中旬 ～下旬	国家・地方公務員採用担当者による業務内容、採用試験の説明。
公務員試験対策セミナー	公務員志望者	10月21日（水）	2009年度の公務員採用試験の傾向と、来年度受験に際しての心構え。
公務員試験合格者報告会	公務員志望者	12月16日（水）	公務員試験に合格した4年生による、勉強の方法やモチベーションの維持等アドバイス。
教員選考学内説明会（東京都、千葉県）	教員志望者	12月9日（水）	東京都、千葉県の教員採用選考担当者が、採用試験の実施状況などを説明します。
教員選考学内説明会（神奈川県、横浜市）	教員志望者	12月14日（月）	神奈川県、横浜市の教員採用選考担当者が、採用試験の実施状況などを説明します。
教員採用模擬試験	教員志望者	12月19日（土）	来年度教員採用試験受験者のための公開模試を、学内価格で実施。

※前期に実施した行事を、Web Ashで動画配信しています。
社会人準備講座 ～労働基準法を知ろう～（青学社労士会協力行事）（6/25実施）

相模原キャンパス

	行事タイトル	対象者	日程	備考
理工学部生 理工学研究科生 社会情報学研究科生	就職ガイダンス・内定者報告会	2010年度卒業・修了生	9月30日（水）	就職全般のオリエンテーション・就職内定した先輩の貴重な活動体験を聞く会
	就職適性検査	学部3年生・院1年生	10月2日（金）	どんな仕事を求めているか、自分を活かせる仕事は何か等を知る検査(有料)
	製薬業界説明会・業界内定者相談会	化学系3年生・院1年生	10月7日（水）	製薬・化学品会社等に内定した先輩による相談会
	一般常識テスト	学部3年生・院1年生	10月14日（水）	国語・数理・英語・社会・時事などの一般常識テスト（有料）
	SPI2模擬テスト	学部3年生・院1年生	10月21日（水）	多くの企業が実施している代表的適性検査（有料）
	CAB・GAB対策講座	学部3年生・院1年生	10月28日（水）	IT・コンサルティング・商社業界などで多く実施している能力適正検査（有料）
	エントリーシート対策講座	学部3年生・院1年生	11月4日（水）	自己分析・エントリーシートについて学ぶ、添削有り（有料）
	職種研究セミナー	学部3年生・院1年生	11月6日（金）	多岐にわたるメーカー企業の職種を知り就職先の参考にする
	業種別内定者による報告・相談会	学部3年生・院1年生	11月18日（水） ～25日（水）	自動車・電気・IT・運輸通信などの企業に内定した先輩による相談会
	合同企業セミナー	学部3年生・院1年生	11月18日（水）～ 12月12日（土）	各業界のリーダー的企業による業界の仕事内容などの説明会
	学科就職ガイダンス	学部3年生・院1年生	1月中旬	学科就職担当委員による学校推薦方法、内部進学などの説明会
	模擬グループ面接・個人面接	学部3年生・院1年生	1月16日（土）	第一印象、入退室のマナー、人事の視点、頻出問題を知り突破力をつける
	企業説明会	学部3年生・院1年生	2月下旬	各企業の採用担当者を招き、学校で実施する企業説明会
1・2年生	キャリアデザイン講座	1・2年生	10月22日（木）～ 11月5日（木）	なりたい自分になる、社会で求められる能力など自分自身のスキルアップ
	4年生のアドバイス	1・2年生	11月11日（水）	企業を選択した基準は何か、1・2年生でやっておくべきこと等のトーク
	不況下での就職活動とビジネススキル	1・2年生	11月13日（金） ～27日（金）	今何が起き、将来にどういう影響があるかを、経済を視点に学ぶ
	就職プレガイダンス	2年生	12月中旬	業界・職種やエントリーシートに関する説明など就職に対する意識づけ
	公務員試験対策講座説明会	公務員志望者	1月16日（土）	春期講座、青山キャンパスでの対策講座の紹介

オープンキャンパス開催報告

2009年度オープンキャンパスは、7月12日（日）に相模原キャンパス、7月19日（日）、7月20日（月・祝）および8月29日（土）に青山キャンパスで開催しました。7月は相模原キャンパス・4,110名、青山キャンパス・15,358名、そして8月には、14,675名の高校生・受験生とその保護者の方が来場しました。計4回の総来場者数は、34,143名となり、過去最高の来場者となりました。学部・学科紹介企画や青山スタンダード紹介、学部学科の英語入試問題解説や模擬授業等、さまざまな企画を実施しました。また青山キャンパスでは学生団体によるアトラクション、相模原キャンパスでは在学生のツアーガイドによるキャンパスツアー、そして、全日程にわたりボランティアによる学生スタッフが受付、案内、記念品進呈などで活躍してくれました。なお、社会人を対象とした大学・大学院説明会を7月19日（日）、青山キャンパスでオープンキャンパスと同日開催し、355名（昨年度382名）が来場しました。キャリアアップを目指す向学心の強い参加者が多く、充実した説明会となりました。

青山キャンパスでのボランティア学生のみなさん

相模原キャンパスでのボランティア学生のみなさん

21世紀の総合学園創造のために、「青山学院　EVERGREEN 21 募金」

ご協力をお願いします

〈募金対象事業〉

■青山キャンパス再開発

校舎の建設、環境整備等、魅力ある都市型キャンパス再開発

個人　1口5万円、1口未満の金額についてもお受けいたします。

■在学生支援体制の充実

給付型「青山学院スカラーシップ制度」の充実

冠奨学金／寄付者の名前を冠し、寄付者による給付条件指定（寄付金額15万円以上）

お名前を冠することを希望されない場合、または15万円未満のご寄付は「エバーグリーン奨学金」の名称に統合して奨学金を設定いたします。

※ご寄付は税制上の優遇措置の対象となります。

パンフレット請求先:募金事業局（本部3F）
TEL:03-3409-6208　FAX:03-3409-3890

「大学案内、入学試験データ&ガイド（2010年度版）」をウェブサイトで公開中

大学紹介パンフレット「大学案内2010、入学試験データ&ガイド2010」を本学ウェブサイトで公開しています。下記のアドレスにてご覧いただけます。（内容の一部抜粋）

http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/reference/index.html

また、資料請求をご希望の方は、本学HP「入試・入学案内（学部）:大学紹介パンフレット請求方法」から、あるいは自動音声電話テレメールを利用してご請求ください。

アドバイザー・グループ紹介 22

社会人から働くことの楽しさと厳しさを学ぶ　〈藤井アド・グル〉

学生たちが普段接する機会の少ない“社会人”との交流の場を用意し、主に“仕事”についての話を聞くことを私のアド・グルでは実施しています。働くことの“楽しさ”や“厳しさ”を学生に感じてもらうことが大きな目的。年に4～5回、食事会などのリラックスした雰囲気での開催が多いですね。こうした活動に参加する本学の学生をみていると、真面目なところはいいのですが、やや受動的な部分が気になります。もう少し積極的に行動できるようになれば理想的なのですが…。それでも「楽しかった」「見聞が広がった」などの感想を後日学生から聞かされるとうれしいですね。私のアド・グルでの経験を、ぜひ自分たちの将来の“仕事”にも生かしてもらいたいと思います。

国際マネジメント研究科
藤井 賢治 教授

第27号（2005年）からシリーズ連載してきました「アドバイザー・グループ紹介」は今号で終了します。次号より新企画をスタートする予定ですのでご期待ください。

AGUニューズについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニューズ」を年5回（1月、3月、5月、7月、10月）発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニューズ専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニューズ」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口　青 山 キ ャ ン パ ス→学生部厚生課
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活グループ

広報入試センター広報課●2009年10月20日発行●